

十神山



会 報



安 来 節

YASU

GI

BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-0064

島根県安来市古川町 534

TEL 0854-28-9988

FAX 0854-28-9393

http://www.y-hozon.com/

E-mail: admin@y-hozon.com

安来節保存会110周年記念号

安来節保存会創立110周年を迎えて



安来節保存会会長 田 中 武 夫
(安来市長)

安来節保存会も本年で創立110周年を迎えました。これも関係者の皆様のご尽力とその時々に関来節を大切に、親しまれた多くの愛好者のおかげで節目の年を迎えることができました。

本来ですと創立110周年を記念し、盛大に記念式典や民謡の祭典を開催しお祝いするところですが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、会報発行に代えさせていただきますことをご了承願います。

明治44年、それまで歌い継がれてきた安来節を地元愛好家の皆さんが奮起し、正調安来節保存会を創設され、さらに振興すべく取り組みがなされた結果、今日の安来節があるとあらためて感謝をいたしております。

今日、全国で唄い親しまれている安来節は、日本の代表的な民謡であり、数多くの愛好者を有し、その名声は不動のものとなっておりま

す。民謡は、人々の間で自然に生まれ、その土地・土地の生活感情を織り込んだ素朴な歌であります。今の時代に最も必要とされる自然への畏敬と、人間への情緒が随所に盛り込まれているといわれております。私どもには、素朴で美しい風土と暮らしの中で生まれ唄い継がれてきた安来節を、貴重な伝統文化として正しく後世に伝える使命があります。

明治に発足した安来節保存会も大正・昭和・平成・令和と元号は変わりましたが、今後とも正調安来節が全国の皆様に愛される民謡となるよう一層精進を図ってまいります。そして、安来節保存会が会員減少や新型コロナウイルス対策など、その時々

の課題を克服し、ますます隆昌発展するよう最善の努力をする所存であります。

どうか、皆様には今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

民謡不況を安来節隆興の機に



資格審査長 渡 部 孝 夫

明治44年創設から110年、安来節保存会の記念をお祝い申し上げます。

安来節保存会の成立以来、100年以上も続いている民謡団体は大変珍しいことです。長く唄い続けられていることはその時代に名手と言われた人たちが出現して、大きな影響を与えたからだと思

います。この人気に乗って、保存会に入っていない多くの人たちも唄い、そして聞いた安来節は人気の支えとなりました。

戦後再スタートとなった昭和24年発行のしおりには、「こんにちの安来節は疾風のごとく俚謡界を風靡して新人歌手や三味線の名手が続々輩出し壮観を呈しております」と、誇り高く巻頭を飾っています。

その後、戦後復興期と高度経済成長期を私たちは経験しました。昭和58年は会員数五千百余名に達しました。それは昭和53年NHKテレビ「民謡をあなたに」の放送がきっかけで、戦後第二の民謡ブームが到来しこれの影響を受けていたと思

います。経済が豊かになるにしたがって、国民の生活にゆとりができ、共に趣味が多様になって民謡離れと言われるようになりました。今日はこの民謡不況の真ただ中であり、安来節保存会も例外ではありません。

いま安来節保存会は大変な節目を迎えています。会員各人の技量向上の努力は勿論ですが、総力で安来節を研究し期待される民謡として発展を果たさねばなりません。

安来節は他の民謡と比較して簡単に攻略が出来ない難曲と言われます。それだけ複雑な「うた」なのですから、よほど理解して取り組まないと味が出ない厄介な民謡ともいえます。

保存会の創設メンバーは安来節攻略法を同会のしおりに残しています。芸能者だけではなく、保存会を支えた人達が安来節の魅力と技量を説明して普及を図った、この功績を改めて評価しなければなりません。本誌を見ると声を出して唄うだけではない歌詞を聞く楽しさなど大切なことを残しています。

会員が結集すれば安来市無形民俗文化財の真価が光り輝きます。安来節保存会の会員組織は大きく、優秀な人材は豊富です。情熱を持って取り組んでいく新しい力が育っていきますよう今後大きな期待を寄せています。

安来節保存会創立110周年を迎えて



家元四代目 渡 部 お 糸

日本の代表的な民謡安来節は、明治44年に「安来節保存会」が創設されてから本年で創立110周年を迎えました。これもひとえに会員の皆様のたゆまぬ努力と安来節に対するご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

長い歴史の中には、たくさんの困難や苦悩も多くあり、特に近年は、温暖化に伴う数々の天変地異や新型コロナウイルス感染症など、未知の世界脅威の中、東京2020オリンピックが盛大に開催され、選手の皆様の真剣な姿に心を打たれ、心から拍手を送りました。

私は、13年前から現在の大阪健康福祉短期大学の介護福祉学科(安来キャンパス)で「日本の生活文化」授業の講師として、学生(1年生)に安来節の唄と銭太鼓を指導しております。若い皆様の夢と希望に満ちた熱い眼差しが眩しく感じられ、一緒に勉強出来る事を大変嬉しく思っております。安来節は難しい民謡ですが、回を重ねるごとに少しずつ上達致します。全く知らず、出来ないと思う事も一生懸命努力を重ねれば出来るという事を体験していただき、発表会を通じて自信と達成感を得られるものと思っております。

また、3年前より留学生も入学され、国際的な授業になり、今年

は初めてコロナ禍の中、ベトナムの学生とオンライン授業を致しました。安来節は、全国に誇れる伝統芸能であり、文化的な財産でございます。この貴重な財産である安来節を皆様にお伝え出来る事を誇りに思っております。

これからの安来節保存会について



指導部長 原 淳 文

明治44年に正調安来節保存会が創設されてから本年で110年を迎えるにあたり今後の保存会について考えてみたいです。

保存会が今まで保たれてきたのも会員の皆様方の協力もさることながら先人の皆様方のご苦労と努力の賜です。また忘れてならないのが

安来市からの後援です。本年、110周年を迎えて、その祝賀を会員の皆様方と祝う事が出来ないのが残念でなりません。昨年からのコロナ禍の中で二年間自粛の連続で大好きな安来節に楽しく取り組めないのは皆様も一緒だと思います。しかし、安来節保存会は、創設されてから二度の戦争を乗り越えて今日を迎えています。「こんな状況だから仕方がない」と諦めるのか、「こんな状況だから出来る事がある」と前に進むのか、厳しい現実の中でも一歩前進すれば必ず光が見えてきます。今だからこそ皆で進んでいきましょう。私もラインで動画を撮って仲間に配信している現在です。

近年、安来節保存会も事務局の皆さんの努力のおかげで変化しています。また、これからも変化して行くでしょう。変化して行くには、世代交代のスムーズな移行は必然的なことです。皆さんと一緒に取り組んで参りましょう。

安来節という伝統芸能の保存は大切な事です。しかし、伝統というものは時代に合わせてつくり上げるのも必要なことだと思いますから、新しい事に挑戦していくことも大切ではないでしょうか。

芸の道とは「人の希望となる芸の道を」です。これからの保存会、会員の皆様と一緒に大切にしたい事は、次の三つの「つ」です。

「つながる」「つたえる」「つづける」の実践です。世代を超えて皆で協力して希望を常に持って一歩進んで参りましょう。私も微力ながら努力して参ります。

今後の安来節



安来節との出会い



牟田 一 佳
(江田島能美支部)

私と安来節との出会いは、詳しい話も聞かぬまま何の気なしに誘われるまま友人に連れられて、石川先生の教室を訪れたのが始まりです。平成二十年の夏のことでした。

元来、楽器が好きで学生時代にはギターを少ししかじったこともあり、単調の中にある単調であるがゆえに難しい三味線の魅力にみるみる取りつかれ、石川先生の熱心な指導の下、楽しみながら稽古に励み、翌年の資格審査で2級に、平成二十七年には師範に昇格させていただきました。

当初、唄は苦手なので三味線だけを習っておりましたが、石川先生より「唄を知らにやあ三味線は弾けんで」のお言葉をいただき、平成二十二年に三級に、平成二十五年より始めた鼓は、平成二十六年に二級をいただきました。唄、鼓は、今年師範に昇格させていただきましたが、唄に関しては稽古の度に石川先生より何十回何百回と同じところを直されるのですが上手く唄えず、四度目の師範審査でようやく昇格させていただくことができました。

鼓は、濱崎先生よりご指導いただいております、三味線同様一度目の師範審査で昇格させていただきました。石川先生の根気強い指導、濱崎先生の熱の入ったご指導には、安来節に対する情熱を日々感じております。

私にとって安来節はなくてはならないものとなっておりますが、三年前より手を痛めており現在は三味線を弾くことができず苦しい思いをしております。まずは元のように弾けるようになること、唄は益々稽古に励むとともに、石川先生、濱崎先生から教わった技術、心を、後進に惜しみなく伝えること、奥深い安来節

まだまだ道半ばの私ではありますが、一人でも多くの方にこの安来節の魅力を伝えることを目標に、私なりに頑張っています。

私の今後の安来節



安 藤 毅
(大江戸支部)

私がまだ大学院の学生をやっていた頃鳥取県出身のTさんが研究室の助手をされていた。Tさんはその頃もギターの趣味を持っておられて、研究室にご自分のエレキギターを置いて、教授や助教の先生方が帰られた後、夜間の七時から八時以降の、研究の手隙き時間に、肩からエレキギターを下げて、弾いておられました。その頃、弾いておられたのはもちろん安来節ではありませんでした。もともと安来節をエレキギターで弾く事は恐らく、余程の特別な場合を除いて、無いだろうとは思いますが……。

私が安来節を習い始めたのは、会社を定年退職して、数年後に、Tさんに誘われてからだだったと思います。それがいつだったかは、ハッキリとは憶えていません。私は、もともと、歌を唄うのは今も昔も不得意ですが、それでも楽器なら(なんの理由もなく)、声ではないのだから少しは何とかなるのではないかと思いつけていたのですが……。三味線の音を聞き、それに合わせて声を出すという両方が揃った安来節なのです。私にとって「難しいことこの上なし」なのです。しかしながら、折角苦労して何年も習ってきた安来節なので、自分の年に相応な(鈍行)安来節とでもいうべきものに乗り換えて、ゴットン、ゴットン、ゆつくり、ゆつくり、周りの景色を楽しみながら、しかも少しでも唄が上手になるように、今後も安来節の道を進んで行きたいと思っています。

安来節保存会10年間の主な歩み (2012年～2021年)

- 二〇二二年(平成二十四年)
 - ・家元四代目渡部お糸「地域文化功労者表彰」受賞(文化庁)。
- 二〇二三年(平成二十五年)
 - ・「唄い初め会」の会場を安来市民会館から安来節演芸館へ移す。
 - ・出雲大社「平成の大遷宮」奉祝奉納公演に安来節出演(出雲市)。
- 二〇一四年(平成二十六年)
 - ・初代渡部お糸六〇回忌追悼記念祭。
 - ・『安来節』安来市無形民俗文化財指定。
 - ・新安来市発足一〇周年名誉市民顕彰(初代渡部お糸)。
- 二〇一六年(平成二十八年)
 - ・「お糸まつり」の会場を安来公園演舞場から安来節演芸館へ移す。
 - ・「出雲の国たたら風土記鉄づくり千年が生んだ物語」が日本遺産として認定。民謡安来節が構成文化財として位置づけられる。
- 二〇一七年(平成二十九年)
 - ・安来市総合文化ホール「アルテピア」開館記念安来節公演(安来市)。
 - ・東京浅草「浅草寺」にて安来節奉納公演(東京都)。
 - ・地域伝統芸能活用センターより「地域伝統芸能大賞・地域振興賞」受賞(出雲市)。
- 二〇一八年(平成三〇年)
 - ・NHK朝の連続テレビ小説「わろてんか」に安来節女踊りが登場(関西支部出演協力)及び安来節乙女組トークショー開催(安来節演芸館)。
 - ・安来節全国優勝大会会場を安来市民体育館から安来市総合文化ホール「アルテピア」に移す。
- 二〇二〇年(令和二年)
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大により資格審査会・安来節全国優勝大会・地区予選会を中止。併せて会長・家元・資格審査長による会員激励メッセージをYouTubeにて配信。
 - ・安来節基礎テキスト並びに動画作成、会員へ配布。
 - ・11代目安来節保存会長に田中武夫就任。
 - ・一般の部に「熟年師範」の階級を設ける。
- 二〇二一年(令和三年)
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大により資格審査会をビデオ審査とする。
 - ・安来節全国優勝大会・地区予選会を中止。



アルテピア開館記念公演(平成29年)



「安来節」
安来市無形民俗文化財指定
(平成26年)



出雲大社「平成の大遷宮」
奉祝奉納公演(平成25年)



家元四代目渡部お糸氏(中列左から5人目)
「地域文化功労者表彰」受賞(平成24年)



新型コロナウイルス感染症拡大により
審査会をビデオ審査とする(令和3年)



安来節全国優勝大会を
アルテピアにて初開催(平成30年)



「地域伝統芸能大賞・地域振興賞」受賞
(平成29年)



東京・浅草「浅草寺」にて
安来節奉納公演(平成29年)

師範・大師範以上 研修会中止の お知らせ

本年10月～11月に開催予定でした「師範研修会・大師範以上研修会」は、新型コロナウイルスの感染が拡大している現状で、収束の見通しが立っていないことなどから、会員の皆様の健康や安全面などを第一に考え、昨年に引き続き、今年も中止することにいたしました。何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。